2019 いのちの森植樹祭ＩＮおたる奥沢水源地ＶＯＬ7

公益社団法人 国土緑化推進機構
National Land Afforestation Promotion Organization

≪この植樹祭は緑の募金交付金による事業です>

ニトリ　公益社団法人似鳥財団

2019 年 9 月 22 日　23 日

主催：北海道千年の森プロジェクト

助成：(公社）国土緑化推進機構　（公社）似鳥財団　　共催：(一社）小樽青年会議所

後援　：　北海道後志総合振興局　小樽市　小樽市教育委員会　小樽商工会議所　（一社）小樽観光協会
小樽ロータリークラブ　小樽５ライオンズクラブ 北海道教職員組合小樽市支部
北海道中小企業家同友会しりべし・小樽支部

http://sennenno-mori.com

令和元年 9 月 20 日（金）【植樹祭準備】

北海道新聞・朝刊をみると、天気は朝から午後三時まで雨の予報だった。しかし、空には青空が広がっている。午前 10 時に水源地に着く。今年もまじぇる会の旗野さん室崎さん、東京から安西さんの顔が見える。一年ぶりの再会となる。本年度、共催の小樽青年会議所からも伊藤副理事長を筆頭に若い精鋭達が集まってくれている。

中村理事長の「いい天気です。皆さん頑張りましょう」と言う挨拶から今年もスタートだ。すでに荒木副理事長の創建社による整地工事が終わって植樹する美しいマウンドが作られている。

植樹の場所は昨年のマウンドと続いている。

荒木副理事長から今日の作業の手順が話される。

① 鶏糞を黒土に混ぜて耕運機で均していく。

② 一昨年のマウンドの雑草を取る。

③ 作業に必要な縄を作る。

④ ビニールシートに包まれている藁を各マウンドに運ぶ。

⑤ 作業に必要な水の容器を各マウンドに並べる。

⑥ 参加者の歩く道路の草刈

毎年作業に参加した皆さんだけに、素早く作業に取り掛かる。まずマウンドのそばに積み上げられいる鶏糞をそれぞれのマウンドに運び、鶏糞を平均に撒いて黒土と混ぜるのだ。みんな一斉に取り掛かる。鶏糞が平均に撒かれたのを見て、政寿司のマグロ解体の名人タケさんが耕運機でマウンドの土を均していく。それに札幌の長塚さんが手伝っている。長塚さんは札幌に在住だが、この数年、理事会にも来てくれる。新しい耕運機のコンビの誕生だ。

雑草取りは意外に大変な作業だ。雑草なだけに根が深く生えている。雑草は一昨年植樹した

木の回りにびっしり生えて圧倒的な力を示している。しかし、雑草刈に挑む。まじえる会の皆さんは雑草を刈り取る小さなカマでしぶとい雑草を切り取っていく。田中理事や井形理事も草刈の道具を身につけていて、作業は手慣れたものだ。

今年は嬉しいことに旭川から25才の若者である大泉君が昨年に引き続き参加して、準備作業まで応援してくれている。将来、東川町で整体治療院を開設したい夢を持っている。

突然アクシデントが起こる。なんと田中理事が蜂に刺されてしまった。マウンドの雑草にハチの巣があったのだ。巣は結構大きくて周りに蜂が飛んでいた。さっそく病院に手当てに行くことになった。この巣を除去しないと植樹祭の参加者に被害が及んだら大変だ。田中理事は当会の救護の三ッ山病院で手当てを受ける。幸い消毒ぐらいで終わった。

小樽ＪＣのメンバーは植樹祭当日の会場設営の準備をしている。中村理事長は会社にある草刈機を取りに行く。この機械があれば道路の草刈作業は順調に進むはずだ。

椅子やテーブルがトラックで運ばれてくる。そのトラックが柔らかい土に車輪が埋まって動けなくなる。井形理事がトラックに飛びのり、エンジンを始動する。車輪がから回りしてトラックが動かない。さっそくみんなでトラックを押すことになる。何回か試行錯誤してとうとう硬い地面にトラックが移動した。トラックから椅子やテーブルが降ろされる。丁度、昼食も届く。涼しい心地よい風が吹いてくる。水源地跡だけあって周りは緑一色だ。作業をした後の植樹の仲間との昼食はお弁当が一段と美味しく感じられる。明日の

昼食には政寿司さんの超美味しいマグロが差し入れされると言う。

植樹祭が無かったら出会うことのなかった私たちなのだ。こうして地球の環境保護のために木を植える仲間が志を一つにして集う光景は景色に負けない美しさを感じる。特に東京からこの準備作業にまで毎年、参加頂いてる室崎さんを初め 4 人のメンバーには頭の下がる思いである。それぞれのテーブルでお弁当を食べながらの懇談が始まる。そのテーブルに井形理事夫妻の庭で収穫した黒ブドウが出される。更にはまじぇる会のメンバーのお土産の美味しいお菓子が加わる。お弁当を食べお茶を飲みブドウやお菓子を食べて午後の作業へと時間が進む。市役所の元教育部長の山岸さんが午後より作業に参加してくれる。

午後からはマウンドの藁を抑える縄づくりから始まる。マウンドの長さに合わせて縄が作られる。だいたい長さが 5 メートルほどだ。この作業も手慣れたものでスムーズに進められる。マウンドの幅は約 5 メートル、20 メートルの縄が次々と作られていく。マウンドのそばには水槽が置かれていき、植樹祭の準備は着々と進んでいった。

9 月 21 日（土）【植樹祭準備】

今日も晴天だ。明後日の植樹祭の当日は台風の影響で天気予報は雨の様だ。この今日の天

気が続いてほしい。今日は宮本理事・田中理事がリーダーとなって挨拶から始まる。作業の手順は、

①　藁の配分作業　②　苗の種分け　③　開会式会場のテント設営　④　会場への案内板

を手分けして行う。

　今日は東京の安西さんが帰京して、新たにまじぇる会から鈴木さん、東京から浦田さんが来てくれている。藁は人の背丈ほどで円筒型になって二か所ある。いつしか旗野さんがリーダーとなり、二つに分かれて

円筒型の藁を崩していく。マウンドが１２ブロックあるので、１２ブロック各２ブロックに一つの藁の山を作ることになる。青いシートの上に崩された藁が運ばれて行く。まるで藁と格闘をしているようだ。籏野さんの指示で円筒の藁が上手にはがれていく。青いビニールに藁が大体平均にお置かれて、それを包み込むようにしてビニールで囲み完成だ。その藁を四人がかりでマウンドまで運んで、その上に重い石をしっかりと置く。台風を予想して、いつもよりも念入りに石を置き風に備える。

　昨日運ばれてきたミズナラの苗木は、自然の村から９００ポット３８トレー。島牧杉山先生から６５０ポット２７トレーが一か所に集められている。それを一つのケースに８本ずつ分ける作業だ。水源地の回りはミズナラの大木が森となっている。この苗木が数十年たつとあのような大木になるのだと思うと自然の偉大さを感じる。

　作業は手分けして順調に進んでいく。このケースには午後からグリーンワールドから納品される苗木を加えるのだ。午前中の作業が終了し、昼食となる。

　今日は政寿司のご馳走のマグロが楽しみだ。マグロ解体の名人タケさんが車からマグロを運んでくる。普段お目にかかれない見ただけで高級品とわかるマグロなのだ。口に入れただ

けで溶けてしまう美味しさを堪能する。普段から市場では売っていないマグロを賞味出来たことに幸せを思う。緑に囲まれた水源地での昼食会は和やかで作業の疲れを忘れさせ、また新しい一つ思い出が生まれる。

昼食中にグリーンワールドから苗木が届く。午後の作業はこの苗木を分ける仕事だ。市川専務から浦田さんと旗野さんに苗木の種類と数量の資料が渡されていた。この二人の指示によって区分け作業が始まる。苗木はノリウツギ、ガマズミ、マユミ、ツリバナ、アオダモ、オオヤマザクラ、カンボク、ノリウツギ、アズキナシ、低木、中木、高木と種類が豊富だ。

種分け作業が終わると、苗木の入ったケースをマウンドに運ぶのだ。一つのマウンドに８ケースはある。苗木の入ったケースは結構重い。少し傾斜があり、石が突き出ているマウンドに行く道は転んだら大変だ。田中理事が「山川副理事長もういいよ」と高齢者に優しい言葉をかけてくれる。この温かい思いやる心が千年の森の会員の絆を深めていくのだ。

青空に終始、草刈機のズーン、ブーンという音が響いて、会場の回りの草がきれいに刈られていく。正面席のテントも張られていく。会場までの立て看板も立てられて、計画通りの作業が順調に進められていく。小樽市の水道局から借りた水槽を積んだ、トラックが水を運んでくる。

この植樹祭がなかったら、出会うことのなかった人たちが心を一つにして植樹の準備作業をしている。この緑の自然に囲まれて新鮮な空気を吸いながら地球の命を守ろうと汗を流して働く仲間に一層の親しみを感じながら二日目の作業を終える。

9 月 22 日(日) 【藤原一繪先生視察】

【船上山（住吉神社）視察】

今日は横浜より藤原一繪先生がおいでになる日だ。千歳空港には中井副理事長が迎えに行き正午に政寿司で打合せを兼ねた昼食を摂る。昼食後、山川副理事長の車で藤原先生は中村理事長と住吉神社の船上山の植樹の状態を見に行くことにした。今年の春に雑草刈をした船上山だがマメ科の植物のクズの木の蔓が植樹をした木に巻き付いている。クズの木は日本全国に見られる常緑性のつる植物で茎から出る無数の根によって他の木や岩に巻き付くのだ。クズは秋の七草の一つで、葛餅などで美味しく食べられるが雑草としては最強なのだ。藤原先生のお話だと春の内にクズの木の根に駆除の薬を入れた注射を打つのがいいそうだ。住吉神社の船上山は 5 年がかりの植樹の効果が鎮守の森として成長している。　船上山で藤原先生のお話をもっと聞きたかったが、やぶ蚊が襲い掛かって体中がかゆくなってくるので退散

した。

【奥沢水源池視察】

　奥沢水源地の植樹の場所に着くとみんな藤原先生を待っていた。一年ぶりの再会の人が多い。蘭越の渡辺理事夫婦の顔も見える。植樹のマウンドにはこの二日間で準備作業をした結果がいつでも植樹が出来る体制として出来上がっている。　１２ヶ所のマウンドの前には、水の入った水槽、２２種類２．１５０本の苗木がケースに収められ、その横に移植コテ、スコップ、ブラシ、水バケツがセットになって置かれている。明日の降るかもしれない雨の対策に植樹に使う藁がビニールで包まれている。マウンドの藁を抑える縄は、これも雨に備えて明日の天気を見て使うために、マウンドに張らないで雨に濡れないように置かれている。明日の植樹祭に向けて準備万端怠りなく用意されている。これには藤原先生もご満足のようだった。　昨年一昨年の苗を植えたマウンドを見に行く。先生の目についたのはせっかく根を張り成長した若木が鹿に食いちぎられていることだ。鹿対策が課題となるようだ。　藤原先生の点検を終えて、6 年前に植えた苗床を見に行く。一年ごとに木の成長が異なり、見事な成長をしている苗床もあるが成長不良の苗もある。その年の気候もあるのだろう。またここは今年の春に雑草刈をしていないので雑草の成長が目につく。

【藤原一繪先生・まじぇる会との意見交換会】

今年もおたる政寿司の美味しい料理をいただきながらの意見交換会が行われた。会場に入ると正面に大きな垂れ幕が目についた。そこには素敵なデザインのマークがあって、大きな文字で【いのちの森づくり】と書いてある。森づくりの「森」は文字でなく三本の小さなこんもりとした木のデザインだった。そして環境省「つなげよう、支えよう、森・里・川・海」と書かれ、その下に後援された団体の名前が並んでいる。正にこのスローガンが北海道千年の森プロジエクトの歴史を語っている。藤原一繪先生が全国各地で行われている植樹活動を宮脇昭先生の名の元にネットワークで結ばれるよう取り組みが起きていることを話されていたが素晴らしい構想であり、これに期待したい。

今年の意見交換会には迫小樽市長が出席された。更に小樽市議会の鈴木喜明議長も出席されて、小樽市からは今年度ご指導頂いた生活環境部阿部一博部長、産業港湾部薄井洋仁次長も参加頂いた。今まで以上に小樽市も各関連部署から植樹祭をご指導下さっていることも嬉しいことである。中村ひろゆき衆議院議員の川仁秘書が今日、明日と参加して下さる。官民一緒になっての植樹祭はこの小樽が先駆者となって活動を続けているように思うのである。

小樽青年会議所、鹿角理事長の乾杯で始まった意見交換会だが、ＪＣ役員も植樹祭のリーダーとして、責任を持って協力してくれる。このプロジェクトとの植樹活動は小樽ＪＣの若い力なしには進まない。小樽ＪＣは先輩後輩の関係が極めて秩序だっているようだ。若いＪＣ会員のかつての理事長だった荒木副理事長や市川専務への敬意が伝わって来る。

市川専務からリーダーの紹介と参加団体の代表の紹介があって、それぞれユーモアあふれるスピーチが会場を笑いに誘う。毎年のように志を一つにした仲間のこの会は和やかで素敵な会のように思う。今年の意見交換会で最も感動したのはまじぇる会・高木さんからの手紙だった。今年も出席された横浜の田村さんが代読してくれた。

拝啓　　大変ご無沙汰してしまい、申し訳ありません。

今年も小樽水源地の植樹祭のご案内ありがとうございました。毎年、植樹祭の案内を戴くのが楽しみでしたし、小樽だけは、休まずに植樹祭に参加しようと思っていました。2009 年 7 月 21 日に小樽の植樹祭にお伺いしたのが､初めての北海道に足を踏み入れた時で、市川さんに大変お世話になりました。又、山川副理事長様には小樽はもとより近郊の余市までも案内していただき感謝しています。

2016 年の「水源地の森植樹祭」に参加しました時は、本当に楽しかったです。あの植樹祭の前夜は、小樽水源地の森から流れてくる 10 段の滝のライトアップされている素晴らしい場所に案内していただきました。幻想的な月と雲の流れと滝を鑑賞させていただき、とても満足したことを　覚えています。中村理事長が一生懸命に説明して下さいました。本当に嬉しかったです。

その後、天候が良くなかったこともあるかもしれませんが、腰と膝を痛めまして、なかなか思うようには回復しません。考えたら、今年の四月で満 90 歳になりましたから、仕方のない運命かと感ずるようになりました。歩くことは急がなければ何とかなりますが、皆様にご迷

惑かけない内にと思い、欠席させていただきます。本当に長い間、お付き合いをありがとうございました。中村理事長はじめお世話になりました皆様に、くれぐれも宜しくお伝えください。　田村さんが、まじえる会の会報の「ざわめきの森」を送りくださいますから、今後も小樽の植樹祭には参加できませんが、参加したつもりで読ませていただきます。

　北海道千年の森の植樹祭の関係者の皆様のご活躍を、心からお祈り申し上げます。長い間本当に有難うございました。

2019 年 9 月 15 日　　東京都　高木 美代子

と言うお手紙だった。高木さんの思いがよく理解でき、植樹を通しての人間としての心の繋がりを強く感じたのだった。高木さんは宮脇先生と同じ、今年９０歳を迎えられる、いつまでも健康でいて貰いたいと願う。　宮脇方式は「まぜぇる、まぜぇる」が合言葉であるが、正に植樹を通して老若男女が地球の命を守ろうと真剣に立ち向かっていく仲間の絆を感じるのだった。

　明日は 17 号台風が北海道に進路を向けている。それなのに今夜の意見交換会は例年通り楽しく行なわれいった。最後に藤原先生の発声でこの植樹祭の立役者市川専務を指名して「頑張ろう」のシュプレシコールをみんなで声を上げたのも台風恐れずの気持ちの表れであった。最後に山川副理事長が「地震・雷・火事・親父】と言うが、本当は「地震・雷・火事・台風」なのだと言い、四国では南風を「まじ」といい、大きな南風が「やまじ」で台風は「おおやまじ」と言うことから、「おおやまじ」が「おやじ」になったエピソードを披露して、最近の親父は優しくなったので、明日の台風も大暴風雨にはならないで優しく小樽に接近してくるだろうということで、明日の植樹祭の成功を祈願しての乾杯をして終わりとなった。

9 月 23 日（祝日）　【リーダー研修会】

17 号台風は北海道に近づいてくる。その前兆のように 7 時ころからポツポツと雨が降ってきて止みそうもない。雨天決行の決意で会場に向かう。同乗者は藤原先生とまじえる会の谷会長と田村さんだ。これまでに全国各地で植樹をしてきただけあって、多少の雨には動じない。雨の中リーダー講習会が始まる。今年も新人のリーダーがいるので、藤原先生の指導はいつもと変わらない丁寧で、いかに能率よく作業を進めていけるかを指導してくれる。

まず苗木を見てポットの穴をもっとあけて空気がいっぱい入るように指導される。先生は苗木を一目見て成長の年齢を当てる。苗木の成長の差は、この空気の穴にも関係するようだ。そして苗木を水槽に 5 つ数えるまで入れて、今度は「根にたっぷり水をやって空気を追い出しましょう」などと順序に沿って一つ一つの意味を教えてくれる。

植樹に当たって大事なことは、「苗木に水をたっぷり入れること」「苗木がしっかりと入る土に穴をあけること」「苗木と苗木の間をしっかり開ける事」「同じ苗木をならべないこと」だ。さっそく作業に入る。さすがリーダーだけあって先生の指示通り行動する、苗木がマウンドに並べられる。リーダーは苗木を植える場所に立つ。先生の指導の通り、同じ苗木を並べたりしないで、混ぜる混ぜるの言葉通り違った苗木をシャベル一つ半ほど間隔で置いて行く。すでにニトリ提供の桜の木が一本添え木を添えて立っている。

マウンドはみるみる内にきちんと苗木が置かれている。さっそく植樹に入る。シャベルで土を掘り、そこに苗木を植える。根をそっと手で押さえ命を大切にする行為はここにも見られる。

雨を予想してビニールに包まれていた藁が顔を出す。これは隙間なく横に置いて行く。強い雨で苗木が流されないようにするためだ。その藁を保護して縄が張られる。しっかりと強く張る。縄を杭に縛り付ける極意を初めてのリーダーに教えている。

今回は雨が降っているので水の心配はないように思うが普段は水槽の水たっぷりと苗木に与えてあげる。最後は小樽ＪＣの大川さんの音頭で「頑張ろう」のシュプレシコールを雨にも負けないで合唱して

リーダー講習会が終わる。　雨は止みそうもない。泥だらけになった靴のまま開会式会場に向かう。今年の植樹祭は雨と泥の中での作業になりそうだ。

小樽 JC の次年度理事長の宮前君も今年は一メンバーとして参加してくれている。市川専務理事と来年度も引き続き協力体制を取るとの力強い握手を交わしていた。植樹祭スタッフには多くの JC 卒業者が志しを抱き、参加してくれている。昨年担当の前田君の今年の輝きには素晴らしいものであった

【開会式】

雨の中の開会式となった。雨合羽を着た参加者が集まっている。この雨の中よく参加してくれたことに感謝する。来賓席には佐藤ただひろ北海道議会議員、小樽市**迫** 俊哉市長、小樽市議会 鈴木よしあき議長、衆議院議員中村ひろゆき代理、似鳥文化財団柿崎啓志様、小樽ロータリークラブ松倉会長、小樽ライオンズ山塙会長、小樽観光協会代表ミス小樽の本間さん、西田さん、東京からまじぇる会 谷代表、そして共催の小樽青年年会議所鹿角健太理事長が臨席なさっていた。

中井副理事長の軽妙な司会で開会式が始まる。いつも元気な中村理事長は雨にも負けない、いつもより大きな声での挨拶だった。「私たちは自然と一体なって生きることが大切です。今日は雨と一体なって頑張りましょう。」と短くも雨にも負けない決意の様だった。残念なのは中村理事長の「うさぎ追いし・・・」の故郷の振り付けの歌がなかったことだ。これは雨のため時間短縮で仕方がない。

来賓を代表して迫小樽市長が挨拶に立った。若くて清々しい迫市長は、市長になられる前

から朝里ダムの植樹祭にも参加してくれている私たちの仲間である。千葉での台風で長い停電で苦しんでいる人たちに思いを寄せ、停電の要因が古い大木が台風の風で送電線を破壊したことによることを話されて、木の大切さを語ってくれた

例年の通り藤原先生の植樹指導が始まった。今年は 24 種類 2000 本の広葉樹を植える。ス

テージには指導用の「タニウツギ」「ミズナラ」「イタヤカエデ」など数種類の木が用意され、まず迫市長から、いつものように三度唱えてみんなで唱和する。今年はミス小樽西田さん本間さんも登場する。

次にリーダーの紹介だ。いつもよりも雨のためスピードアップの開会式になった。総勢１５７人の参加者だ。よくこの台風の中集まってくれたと一人一人と握手を交わしたい思いだ。

【植樹祭】

開会式の後、リーダーの先導で藤原先生に指導を受けた手順に従っての作業に入る。

初めてのリーダーはやや緊張気味だが、声を大きくして頑張っている。来賓も迫市長が先頭

になって植樹をする。迫市長は市の職員だった時に植樹祭に参加しているので要領は会得している

ので行動が素早い。来賓のリーダーは中村理事長自ら指導に当たっている。ミス小樽の傘下で雨の作業も華やいだ感じだ。

　奥沢小学校の子どもたちも参加している。赤ちゃんを背負ったお母さんがいる。この家族はお父さんも一緒に子どもが四人で二年生の男の子を先頭に幼稚園の子とまだ小さな子までが作業に加わっている。

　今年は「故郷に木を植えよう」と全市の子どもたちに呼びかけて、水源地の近隣の向陽中学校や奥沢小学校から児童生徒が参加予定だったが、雨のために参加できなかった子ども達もいたのだ。しかし、この運動はこれからも続けていきたいと思う。

この四人の子どもの家族は素晴らしい家庭をつくっているのだろう。小さな子どもまでお

兄ちゃんに負けないで木を植えている。藁を

運ぶ時など、大人に交じって活躍している。

この家族での参加こそが、これからの私たちプロジエクトの目指す姿なのだろう。「来年も

来てね」と言うと、大きくうなずいていた。

どのマウンドも順調に作業が進められている。台風にも負けないで植樹をする光景は北海

道千年の森プロジェクトに新しい歴史が加わったように思う。次々と植樹作業が終えていく。本当に雨の中雨合羽を着てよく頑張ったと思う。幸い泥で滑って、転んだり、作業が中止されるようなことがなかった。それでも長靴を泥だらけにしての奮闘である。

いつもなら、マウンドのそばで立看板に参加記念の名前を書くのだが、テントの移動して行った。写真記録の浜田カメラマンもカメラのレンズを雨で曇らせまいと苦労しながらの撮影だった。

　同時に開催された国土緑化推進機構の写真展も雨の中ではあったが子ども達始め、皆さんの関心を集めていた。

　作業を終えて三々五々テントに集合する。ここには特大の美味しいおにぎりと体の温まる豚汁が待っている。今年は雨の中での昼食で立ったまま食べている人もいていつもと異なる風景だ。

　地球の温暖化の影響で台風も増加していると言う。しかし、地球の命は未来の子どもの命だと思うと、この植樹活動を全道、全国、そして政界へと広めていかなければならないと思う。その意味で今年の台風の中での植樹活動は大きな意義があるように思う。この参加者のエネルギーこそが未来の子どもの命を守っていくのだ。十三年前に小樽に宮脇先生をお迎えし、小樽市民が地球の危機に気が付いたのだ。自然の森を再生する事こそが地球の温暖化を防ぐ私たちにできる一つであると思う。

　藤原先生はこの後、植樹の指導にネパールに向かうと言う。宮脇方式の植樹が世界に広まっていくのも後継者の藤原先生などがいるからなのだろう。

　昼食を終えて帰って行く人の表情がいつもより清々しく心が満たされているように感じる。

東京や横浜から参加したまじぇる会の皆さんも植樹が中止にならないで本当によかった。

これまで 18 回の小樽での植樹祭が晴天に恵まれたことの方が珍しいのかもしれない。雨は降り続いている。このあとの後始末の作業も大変なことだ。これは小樽ＪＣの若い皆さんの協力なくてはできないことだ。四日間にわたっての準備作業から最後の後始末まで本当にご苦労様な事だ。

台風に向かって微動だにしない中村理事長の緻密な計画で全体を動かしていく市川専務、マウンド造りから実働隊長として貢献している荒木理事長、小樽市役所からは岡本環境課長、大口農政課長の応援も頂いた。

啓蒙宣伝を企画する熊澤副理事長、山川副理事長それに山本事務局長に山本秀也副局長、前田リーダー、現場を担当する宮本・田中・井形夫妻理事初め、小樽 JC 担当

副理事長伊藤君はじめメンバー多くの皆様が植樹祭を通して更に絆が深まったように感じられた。昨年に続いて札幌の長塚さんに旭川の若い大泉さんとメンバーが増えていくことも嬉しいことだ。

来年は 20 回目の記念べき植樹祭だと言う

凄いことだと思う。また来年に向けて

北海道千年の森プロジェクトの活躍を期待

して報告とします。-----副理事長 山川隆 記